

聴覚特別支援学校における外部支援に関する一検討(その2)^{※1}

聴覚特別支援学校の課題意識調査から

渡 部 杏 菜^{※2} 喜屋武 睦^{※3}

全国の聴覚障害を対象とする特別支援学校及び聴覚障害部門を設置する特別支援学校を対象に、地域の園・学校に対する外部支援実施における課題の調査を行った。101校に質問紙を配布し、62校より回答が得られた(回収率61.4%)。その結果、外部支援先の教職員や管理職の意識、外部支援先の校内体制構築に問題意識を持っていることが示された。今後は管理職にも関与してもらえるような外部支援の方法を検討し、指導・助言を超えた学校組織にアプローチする外部支援が必要となると考えられた。また、聴覚特別支援学校の外部支援を実施するための人材確保についても問題意識を持っていることが示された。その背景には教職員の減少や人事異動による教員配置の変化、聴覚障害教育ゆへの専門性育成の難しさがあることが示唆された。このことから聴覚特別支援学校内では専門性を途切れさせない教員配置の工夫が必要になると考えられた。

キーワード：聴覚特別支援学校、地域の園・学校、外部支援

I はじめに

聴覚障害の発見が遅れた場合、言語、認知、社会性、感情、行動、注意力、学習能力等の発達に影響を及ぼす可能性があることから(三科, 2007)、聴覚障害に対しては早期発見・早期介入が行われてきた。新生児聴覚スクリーニング検査が2000年に導入されて以降、その動きはさらに促進されている。早期介入の場の一つとして、聴覚障害を対象とした特別支援学校(以下、聴覚特別支援学校)の乳幼児教育相談が挙げられる。廣田・齋藤・大沼(2019)が幼稚園を設置している聴覚特別支援学校100校に行った調査では、99校で0歳児～2歳児を対象にした乳幼児教育相談が設置されており、定期的に継続して相談を実施した幼児は1813名と示され、聴覚特別支援学校が早期からの相談・支援を担う重要な機関の一つとなっ

ている。

昨今では、乳幼児期だけではなく、補聴機器の進歩やインクルーシブ教育推進に伴う学びの場の広がり等により、地域の園や通常の学校で学ぶ聴覚障害児が増加傾向にあり、聴覚特別支援学校が地域のセンター的機能を担い、地域の園や学校を支援していくことが広く求められている。実際に、義務教育段階における聴覚障害を対象にした特別支援学級(以下、難聴特別支援学級)の在籍児童生徒数および聴覚障害を対象にした通級による指導(以下、難聴通級)を受けている児童生徒数は、令和2年度時点では、特別支援教育が制度化された平成19年度の約1.3倍に増加している(文部科学省, 2008; 2022)。今後より一層、聴覚特別支援学校が地域の小・中学校を積極的に相談・支援していくことが期待されるだろう。

聴覚特別支援学校のセンター的機能については、特別支援教育体制以前から乳幼児教育相談や通級による指導の実績があり、それらを基盤にセンター的機能の充実に図られてきたことが示されている(斎藤・四日市・鷺尾・田中, 2004; 井坂・仲野, 2009; 井坂・佐々木・池谷, 2012)。喜屋武・渡部・高木(2022)も昨今の難聴特別支援学

※1 External Supports Provided by Special Needs Education Schools for the Deaf (Part2): Through Research on Issues of Special Needs Education Schools for the Deaf

※2 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

※3 福岡教育大学 特別支援教育研究ユニット

級在籍児童生徒数、難聴通級を受ける児童生徒数が増加していることを踏まえ、聴覚特別支援学校の地域の園や学校に対する相談・支援（以下、外部支援）に関する調査を行った。先行研究同様に、就学前の早期相談の場としての役割を担っていることが示されるとともに、切れ目のない支援に向けて中学校・高校への相談・支援の充実を目指す必要性が示され、センター的機能の充実は図られているが課題は依然として存在することが示唆された。

聴覚特別支援学校におけるセンター的機能の促進・充実について、しばしば難聴特別支援学級や難聴通級を担当する教員の聴覚障害に関する専門性の課題や要望からその必要性が言及される（矢野・齋藤・鷲尾・四日市，2003；井戸・左藤，2018；林田・河野・河原，2018；喜屋武・飯塚・渡部・大鹿，2022）が、センター的機能を担う聴覚特別支援学校が認識している課題を明らかにすることで、今後の聴覚特別支援学校の相談・支援の在り方の活路を見出すことができるのではないかと考える。

そこで本研究では、文部科学省（2005）の示す以下の特別支援学校のセンター的機能、すなわち①小・中学校等の教員への支援機能、②特別支援教育等に関する相談・情報提供機能、③障害のある幼児児童生徒への指導・支援機能、④福祉、医療、労働などの関係機関等との連絡・調整機能、⑤小・中学校等の教員に対する研修協力機能、⑥障害のある幼児児童生徒への施設設備等の提供機能のうち、①②③⑤の外部支援に焦点を当てて現状を示した喜屋武・渡部・高木（2022）の結果を踏まえ、外部支援における課題を聴覚特別支援学校の視点から明らかにすることを目的とした。

Ⅱ 方法

本研究は、喜屋武・渡部・高木（2022）が全国の聴覚特別支援学校に対して行った質問紙調査の継続研究である。質問紙は3部からなり、第1部、第2部の結果から得られた聴覚特別支援学校による外部支援の現状は喜屋武・渡部・高木（2022）に示されている。その結果を踏まえて、本稿においては、第3部の外部支援実施上の課題について分析した。よって、以下に示す実施方法は分析方法を除いて喜屋武・渡部・高木（2022）と同様で

ある。

1. 対象

対象は全国の国公立及び私立の聴覚障害を対象とする特別支援学校及び聴覚障害部門を設置する特別支援学校（以下、聴覚特別支援学校）101校とし、質問紙調査への回答は校内において外部支援の状況を把握している教員に依頼した。なお、各学校において外部支援の状況をよく知る教員は異なると考えられたため、校内での判断で回答教員の選出を依頼した。

2. 手続き及び倫理的配慮

各聴覚特別支援学校の学校長宛に調査依頼書を郵送した。送付した依頼書には、倫理配慮事項として①調査への協力の同意は本人の自由意志であり、調査協力者が不利益を被ることがないこと、②調査によって得られた情報は施設や個人が特定されないように厳重に管理することを記載した。この手続きを経て、学校長の研究協力に関する同意を得てから、学校内で外部支援の状況を把握している教員に質問紙調査を実施した。質問紙に記載のある研究協力への同意についての回答欄への記入及び回収をもって本研究への協力が得られたものと判断した。

なお、本研究は福岡教育大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：202104）。

3. 調査期間

調査期間は2021年9月～2021年10月とした。

4. 調査項目

質問紙は松村・大内・笹本・西牧・小田・當島・藤井・笹森・牧野・徳永・滝川・太田・横尾・渡邊・伊藤・植木田・亀野（2009）、井坂ら（2012）及び文部科学省（2017）を参考に作成した。付録に質問紙の内容を示した。質問紙は以下の3部構成とした。

第1部 学校の基本情報：回答者の役職、学校の所在地、学校の学部構成、学校の本務職員数、外部支援に携わっている教員数について回答を求めた。

第2部 外部支援の取り組みに関する調査：対象となった学校種における相談・支援の延べ件

数、相談・支援の対象となった教員、実施した相談・支援内容、外部の園・学校の教員を対象とした研修内容について回答を求めた。なお、相談の延べ件数については、令和2年度に限定した場合に新型コロナウイルス感染症の影響による相談件数の減少の可能性を考慮して令和元年度及び令和2年度の2年間分の相談件数（概算数）を求め、それ以外の項目については複数回答を求めた。

第3部 外部支援実施上の課題に関する調査：松村ら（2009）、井坂ら（2013）及び文部科学省（2017）を参考に、外部支援を行う上で課題として考えられる以下の9点、1. 外部支援先の教職員の特別支援教育システムに対する意識、2. 特別支援教育に対する外部支援先の管理職の意識、3. 教育的ニーズのある子どもへの支援に対する外部支援先の教職員の意識、4. 外部支援先の校内支援体制について、5. 外部支援を実施するための時間の確保、6. 外部支援を実施するための人材確保について、7. 外部支援先の教職員への研修、8. 外部支援を充実させるための校内研修（聴覚特別支援学校内）、9. 外部支援を行う担当者の知識・専門性、について「1. 大きな問題ではないと思う、2. 問題であると思う、3. 大きな問題であると思う」から問題の大きさの程度を選択させた。また、併せて自由記述欄を設けた。

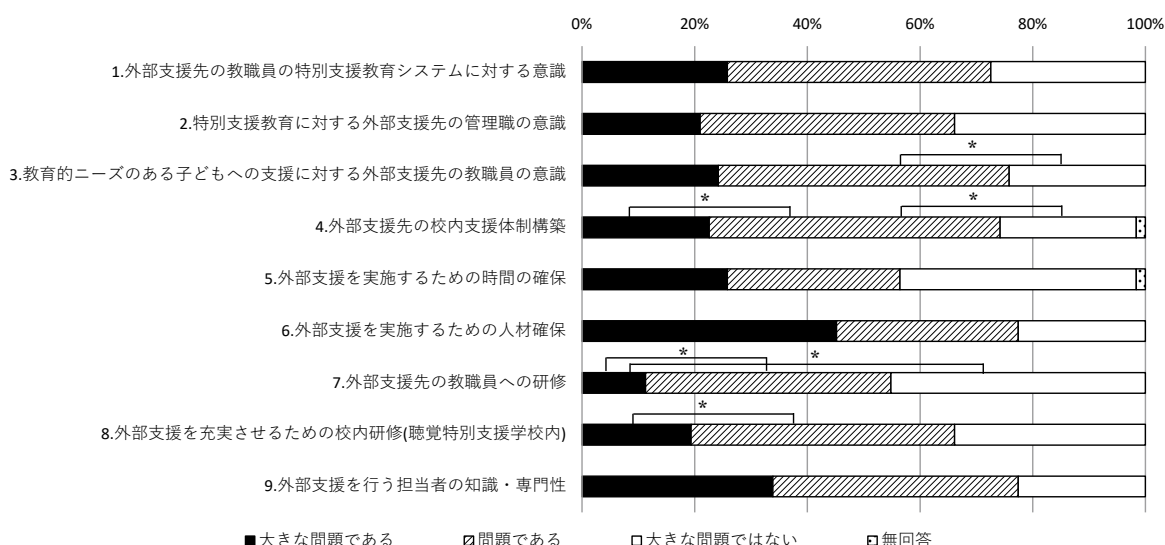
5. 分析

各課題に対する問題の大きさの回答比率および各課題に対する自由記述について分析した。回答比率の差は χ^2 検定を用いて検討した。回答の比率に有意な差がみられた課題についてライアンの名義水準を用いた多重比較を行った。また、地域ごとに各課題の問題の大きさの回答の割合も算出した。そして、各課題の背景を分析するため、回答を「大きな問題ではないと思う」=1、「問題であると思う」=2、「大きな問題であると思う」=3として数値化し、バリマックス回転による因子分析（主因子法）を行った。自由記述については、KHCoder 3を用いて出現語の頻出数を算出し、最頻出語を含む記述から傾向を考察した。

Ⅲ 結果

1. 外部支援実施上の聴覚特別支援学校の教員の課題意識

対象とした全国の聴覚特別支援学校101校中62校から回答が得られた（回収率：61.4%）。外部支援を行う上で考えられる9点の課題に対する回答結果の割合をFig. 1に示した。また、回答の比率について課題毎に χ^2 検定を実施したところ、課題3、課題4、課題7、課題8に有意な差がみられた（課題3： $\chi^2(2, N=62)=9.32, p<.01$,



*: $p<.05$

Fig.1 外部支援実施上の課題に対する回答の割合

課題4 : $\chi^2(2, N=61)=10.07, p < .01$, 課題7 : $\chi^2(2, N=62)=13.58, p < .01$, 課題8 : $\chi^2(2, N=62)=7.00, p < .05$). 回答の比率に有意な差がみられたこれらの課題についてライアンの名義水準を用いた多重比較を行ったところ、5%水準で課題3は「問題であると思う」と答えた割合が「大きな問題ではないと思う」よりも有意に大きく、課題4は「問題であると思う」と答えた割合が「大きな問題ではないと思う」「大きな問題であると思う」よりも有意に大きく、課題7は「大きな問題ではないと思う」「問題であると思う」と答えた割合が「大きな問題であると思う」よりも有意に大きく、課題8は「問題であると思う」と答えた割合が「大きな問題であると思う」よりも有意に大きかった。課題3、課題4、課題8は、重大な課題ではないが問題であると感じられていた。課題7は問題ではないと感じられていた。

2. 地域別に見た外部支援実施上の課題意識

外部支援は地域の実情や自治体の考え方が反映されることが予想されるため、外部支援を行う上で考えられる9点の課題に対する回答結果の割合を地域別にFig.2に示した。

北海道地方では、全ての課題に対し「大きな問題であると思う」と回答した学校はみられなかった。

東北地方では、課題1、課題2、課題4において全ての学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答した。「大きな問題であると思う」の割合が大きかったのは課題9であり、約6割の学校が「大きな問題であると思う」と回答した。

関東地方は、「大きな問題であると思う」の割合が最も大きかったのは課題4であり、「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と約6割の学校が回答した。「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」の割合が最も大きかったのは課題1と課題2であり、8割以上の学校がそのように回答した。

中部地方は、「大きな問題であると思う」の割合が最も大きかったのは課題6であり、次いで課題5であった。課題5と課題6は、8割以上の学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。

近畿地方は、「大きな問題であると思う」の割

合が最も大きかったのは課題9であり、全ての学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。課題6についても全ての学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。課題1、課題2、課題3、課題4、課題8については8割以上の学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。

中国地方は、「大きな問題であると思う」の割合が最も大きかったのは課題9であり、全ての学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。課題7についても全ての学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。課題1、課題3、課題4、課題6については8割以上の学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。

四国地方は、「大きな問題であると思う」の回答があったのは課題6のみであり、その割合は約2割程度であった。「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」を合わせた割合が多かったのは課題3と課題6であり、約6割の学校がそのように回答した。課題7については、全ての学校が「大きな問題ではないと思う」と回答した。

九州地方は、「大きな問題であると思う」の割合が最も大きかったのは課題6であり、約4割の学校がそのように回答し、「問題であると思う」と「大きな問題であると思う」を合わせると8割以上であった。課題8、課題9についても8割以上の学校が「問題であると思う」ないし「大きな問題であると思う」と回答していた。

3. 外部支援実施上の課題に対する背景

外部支援を行う上で考えられる9点の課題項目に対する回答を「大きな問題ではないと思う」=1、「問題であると思う」=2、「大きな問題であると思う」=3として数値化し、バリマックス回転による因子分析（主因子法）を行った（Table 1）。分析の結果、2つの因子が抽出され、第1因子は、課題1「外部支援先の教職員の特別支援教育システムに対する意識」や課題2「特別支援教育に対する外部支援先の管理職の意識」に高い負荷量を示したことから「支援先に対すること」と命名した。第2因子は、課題6「外部支援を実

聴覚特別支援学校における外部支援に関する一検討（その2）

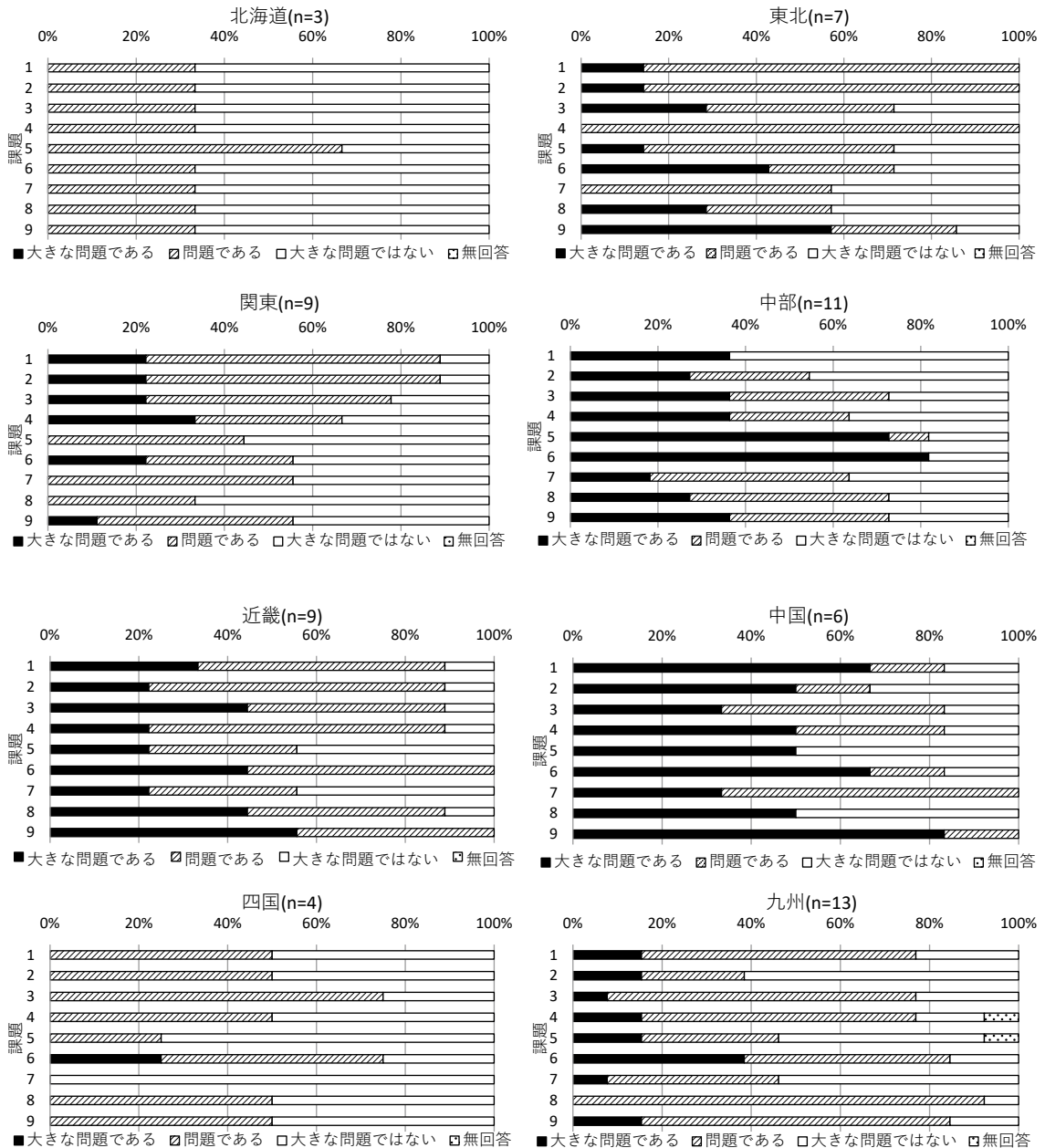


Fig.2 地域別に見た外部支援実施上の課題に対する回答の割合

施するための人材確保について」や課題8「外部支援を充実させるための校内研修(聴覚支援学校内)」に高い負荷量を示したことから「校内の課題」と命名した。課題7は、第1因子、第2因子にも関連はあるが、他と比べて共通性も低く、独自の因子があることが示唆された。

各課題に対する回答の自由記述の傾向を分析するために、KHCoder 3を用いた。表記の統一および「特別支援教育」「専門性」などの複合語の設定をした後、各課題の抽出語を算出した。そして、「ある」「する」「思う」「感じる」といった文章の中で一般的に使われる動詞は除いて、頻出語

Table 1 外部支援実践上の各課題の因子ごとの負荷量

	第1因子 支援先に対すること	第2因子 校内の課題	共通性
課題2	0.91	0.22	0.87
課題1	0.80	0.16	0.67
課題3	0.67	0.25	0.51
課題4	0.62	0.36	0.52
課題7	0.43	0.43	0.37
課題9	0.26	0.62	0.45
課題5	0.32	0.62	0.48
課題8	0.24	0.78	0.66
課題6	0.11	0.80	0.66
因子寄与	2.72	2.47	5.19
寄与率 (%)	30.25	27.42	57.67

主因子法，バリマックス回転による。囲みは因子負荷量0.4以上

を算出した。課題ごとの抽出語の出現回数上位5語と最頻出語を含む記述の一部抜粋は、Table2-1～Table2-3に示した通りである。

IV 考察

1. 外部支援実施上の課題意識の全体の傾向

Fig. 1より、各課題の問題の大きさについての回答を見ると、「大きな問題であると思う」ないし「問題であると思う」と答えた学校の割合は50～80%を示し、多くの学校が課題に感じていることが示された。「大きな問題であると思う」が有意に大きかった課題は見られなかったが、課題3「教育的ニーズのある子どもへの支援に対する外部先の教職員の意識」および課題4「外部支援先の校内支援体制構築」においては「大きな問題ではないと思う」よりも「問題であると思う」の割合が有意に大きいことが示された。課題3の自由記述からは「支援」「教職員」「子ども」といった語が頻出され、記述内容より、教職員の意識は子どもへの指導に直接影響することから重要ではあるが、実際には支援を担う教職員の偏り、他障害種に比べ聴覚障害に関する支援がなされていないことが問題視されていることが示された。難聴特別支援学級や難聴通級を担当する教員の特別支援学校教諭免許状（聴覚障害領域）保有率の低さが指摘されており（林田・河野・河原，2018；井戸・左藤，2018；喜屋武・飯塚・渡部・大鹿，2022），他障害種に比べて聴覚障害教育への理解は遅れていることが考えられる。課題4の自由記述からは

「学校」「教職員」「支援」といった語が頻出され、記述内容より、教職員間の連携の点から校内支援体制について言及されており、教職員間の連携が上手く行っている学校とそうではない学校があることが示された。外部支援で校内体制構築まで担うことの難しさも言及され、先の課題3の支援を担う教職員の偏りの問題と合わせ、学校組織に対するアプローチが課題として浮かび上がった。この点に関して、松田・芝野（2011）はこれまでの教育相談は担任に対しての直接的な支援に終始することが多く、学校組織に対するアプローチが不十分で、支援方法の蓄積と活用ができていない現状があることを指摘している。武田・斎藤・新井・佐藤・藤井・神（2013）は学校組織に働きかけるコンサルテーションの実現に向けて、特別支援学校や専門家による小中学校等の巡回指導の専門性を調査し、依頼者と協働して問題解決にあたり、依頼者の力を引き出して主体的に取り組めるよう支援をしていくことが支援側に求められることを示唆している。子どもに切れ目のない支援をしていくために、特別支援学校による指導・助言が支援先の教員（依頼者）を通じて学校全体で行われることが望まれるが、本研究の結果が示すようにそれは容易ではない。今後は、松田・芝野（2011）や武田ら（2013）が示すように、直接的な指導・助言を超えた支援先との協働関係を築き、学校組織にアプローチしていく取り組みが重要であると考えられる。

課題6「外部支援を実施するための人材確保」

Table2-1 外部支援実施上の各課題の自由記述の傾向

		最頻出語を含む記述
課題1	学校 (19) 支援 (15) 教職員 (13) 多い (10) 意識 (9)	<p>●学校による違い：学校によって温度差を感じることがある。/学校によって温度差がある。/学校や地域によって特別支援教育システムの理解に温度差がある。/学校によって差があるのと、一部の教職員だけが頑張っている学校もあるように思う。/しっかり意識できている学校もある。えっと思う学校もあるが学校によっていろいろ考え方がある。/各校初めて担当する特別支援教育コーディネーターをサポートする体制のない学校もある。/支援を利用する学校としない学校がある。/学校全体で取り組んでいる学校もあれば、学級担任だけという学校もあり、差がある。/意識や取り組みの高い学校や園と、大丈夫と思いつ込んで支援が十分でないところの差が大きいと感じている。</p> <p>●体制の不十分さ：校内研修システムが確立していない学校が多い。/中学校になるとスムーズな連携が難しい学校が多く見られる。/特別支援教育コーディネーターや特別支援学級の担任に任せきりという感じがある学校が多い。</p> <p>●外部支援の周知・理解の問題：支援に行ける学校はよいが手続きを説明するとその後連絡のないケースもある。/学校を支援するシステムであるが、安易に保護者の相談を依頼するケースがある。</p>
課題2	管理職 (19) 意識 (14) 学校 (14) 支援 (13) 特別支援教育 (10)	<p>●体制・指導への影響：管理職の考え方、発言が学校の雰囲気大きく影響するため。/管理職と担当者の連携が取れていないと、校内での共通理解が図りにくく、指導・支援も担当者の独断ですすめざるを得なくなってしまう。/管理職がケース会議等に参加する学校は、学校全体での取り組みや継続的な支援につながりやすい。/管理職の意識によって、学校ぐるみで支援を考えようとするかしないかで、違いを感じることがある。/管理職の特別支援教育への意識・発言は、その学校の教職員の意識、取り組みに顕著に反映するから。/管理職の意識により学校全体の意識が変わる。/特別支援教育は全校体制で臨まないも機能しないので、管理職の意識に大きく影響される。/高校では、特別支援教育が十分に浸透していないので、管理職のリーダーシップが求められているから。/学校によって異なるが支援を申し入れる学校の管理職は意識が高いが、支援に至らないケースがあったり、学校全体として取り組んでもらえない場合もある。/特別支援教育に理解のある管理職がいらっしゃる学校は特別支援教育コーディネーターや担任の声が校内の支援体制にもよく反映されていると感じる。</p> <p>●管理職による違い：管理職によって、特別支援学校の理解に温度差があること。/管理職の意識によって左右されることが多いと感じる。/特別支援教育について困った時に、どこに相談をしたら良いか、フットワークが軽い管理職と相談先がわからない普通校の管理職がいる。/補聴援助システムの使用に関しても面倒がる管理職がいる。/理解がある管理職もいるが、そうでない場合もある。/支援を必要とする学校の管理職はおおむね、特別支援教育に対して意識が高いところが多い。/年々、管理職の意識・理解は高まってきていると感じる。</p> <p>●管理職に関与してもらう工夫：教育相談が依頼された際に、管理職も確認共有できるよう依頼文を発送してもらっている。</p>
課題3	支援 (19) 教職員 (16) 子ども (11) 意識 (10) 学校 (9)	<p>●支援先の業務の問題：他にも多くの相談や支援を必要とするケースがある。/他の子どもの支援や業務にいっぱい子への支援まで手が回らないのではと思う。</p> <p>●適切な障害理解・支援の問題：障害について適切な理解がないと、子どもへの支援・指導が逆効果になる。/担任を中心に一生懸命に支援を考えてくれているが、授業で関わる教職員が、形式だけの支援で、意味をなしていないことがある。/意識が高ければ、外部支援で伝えた内容を必要に応じて取り入れ、子どもの支援につながる。</p> <p>●聴覚障害への理解の問題：教育的ニーズのある子どもの支援全般に対する教職員の意識は高まってきており、環境面や指導内容、方法の工夫が多く見られるが、聴覚障害児の教育的ニーズや支援の必要性に対する理解はまだ十分ではなく、継続的に支援を行う必要性を感じる。/情緒障害や知的障害の子どもに比べ、支援がいらないと思われがちな聴覚障害児に本当に必要な聞こえや情報保障の部分の支援が行われていないことがある。/聴覚障害だけの子どもへの支援については、他の障害の子どもたちより手薄になっている学校も多い。</p> <p>●校内連携の問題、負担の偏り：担当者のみで支援を行うことになると、負担感が大きくなったり、子どもへの対応がまちまちになったりするから。支援の必要性はわかっているけどどう進めるか分からず困っていたり、担当者任せだったりする。/担任や特別支援教育コーディネーターに支援について説明しても、教科担任や周りの教職員に理解が進まないケースがある。</p> <p>●その他：支援に対して広い視点と長い期間の視点が必要。/学校によって大きな差があり、地域ごとに各校の支援力を高める体制ができていない。/特別支援学級(難聴特別支援学級)を講師が担当している場合は支援が難しい場合もある。</p>

Table2-2 外部支援実施上の各課題の自由記述の傾向

最頻出語を含む記述	
<p>課題 4</p> <p>学校 (16) 教職員 (11) 支援 (9) 支援体制 (6) 難聴特別支援学級 (6)</p>	<p>●校内連携の観点：特別支援学級の担任と交流学級の担任との連携が必ずしもうまくいっていない学校がある。/一人への支援や配慮が全体の学びやすさにつながるという認識が共通理解されている学校は、教職員個々への対応がいたかく、特別支援教育の意識も高い。/特別支援教育コーディネーターが難聴特別支援学級担任を支援するなど、共に支援に当たっている学校が多い。/それぞれの学校、園で体制づくりを努力してくださっている。/個々の教職員は熱心だが校内で体制が構築されている学校はない。/</p> <p>●学校による違い：学校による温度差がある。/「個々のニーズに対応すること＝特別扱い」「支援を受けず努力すること＝ノーマル」のような価値観が残っている学校もある。/以前よりは整ってきている学校も多いが、学校によって差があると思う。/学校による進捗に差があると感じる。</p> <p>●校内体制を支援する難しさ：校内支援体制に関わり、助言はするが、それを取り入れてくれるかどうかは、学校によるので、深くは関わりにくい。/特別支援教育コーディネーターを本校に引き、支援体制の必要性を説明しているが、十分に反映されていない学校が多いと思われる。</p> <p>●指導への影響：その子どもが実際に学校生活を送るにあたり、その学校の教職員に特別支援教育に対する意識が高まるのが子どもたちの過ごしやすい学校、学級の雰囲気や学びを助けることにつながるから。</p>
<p>課題 5</p> <p>時間 (16) 外部支援 (8) 対応 (7) 教職員 (6) 授業 (6)</p>	<p>●時間の設定の工夫：主に午後の時間を(外部支援に)あてている。/週2回(午前と午後)、地域支援のための時間を設定している。</p> <p>●校内体制、業務の多さの問題：他業務も兼務しているため、時間の調整に苦労する。/外部支援を担当する教職員は、乳幼児相談や通級による指導、校内の相談も担当しており、来校や巡回相談の事前準備や当日の出張の日程調整、報告書作成等の時間を捻出することに苦慮している。/専任ではないので授業や相談の増加で時間が取りにくい。/現在は専任制をとっていて、外部支援の時間が確保できているので、問題ないが、今後は不安な点もある。/校内での役割分担もあり、時間に制約がある。/外部支援を行う際の準備やその後の記録、連絡報告、場合によって関係機関との連携等大変多くの時間を要することが多いから。/他の業務との兼ね合いもあり、時間の確保が難しい。/本校の行事や授業があり、支援先の希望する時間と合わせることが難しい。/兼任であるため、授業や担任業務に時間をさかれ、時間の確保が難しい。</p> <p>●相談業務の負担の大きさ：様々な実態の子ども、学校に対応する必要があるため、準備の時間が必要である。/時間の確保はされているが、精神的な負担は大きい。</p> <p>●支援先との調整の問題：授業時間での指導のため、(支援先の)担任が授業や指導をしていることも多く、まとまった時間を確保して話すことが難しい。</p>
<p>課題 6</p> <p>教職員 (28) 専門性 (17) 必要 (12) 外部支援 (12) 校内 (10)</p>	<p>●異動および育成・継承の問題：専門性のある教職員が必要。しかし人事異動等で難しさがある。/聴覚特別支援学校での学部経験がある教職員が外部支援を担当することが望ましいと感じるが、初任者が6年で異動する現在のシステムでは専門性を身につけた教職員がそもそも校内に定着しにくい。ため、支援担当者の確保は更に厳しいと感じる。/聴覚障害に関わり、教職員が勉強していても、外部支援となると、特別支援教育コーディネーターの担い手の育成がはかどりにくく、業務が引き継ぎにくい。/近年の教職員の異動の体制により、専門性の引継ぎに大きな問題を抱えている。/学校全体で若い教職員が多く、現在支援を中心で行っている教職員の後継者の育成が難しい。/校内の教職員の専門性、経験年数の維持も厳しいのに。/ある程度の専門的知識とできれば実践がある教職員が支援をする上で具体的に役立つ支援ができるから。それらは計画的に育成していくことが必要と考えるから。/特定の教職員になってしまい、その教職員も異動があるため、伝承が難しい。若い教職員への伝承が必要である。/本年度は経験を積んだ教職員が多く、今は特に問題ないが来年度以降は分からない。/教職員の若年化や人事異動により、外部支援を行う担当者の担い手が少なくなっている。/教職員個々の聴覚障害教育に関する専門性の維持や継承が課題である。/経験の長い教職員の異動や退職により専門性の継承が難しくなっている。</p> <p>●聴覚障害の専門性：聴覚障害についての専門性を有する教職員が少ないため、同じ教職員が対応となる。/離島圏域の統合型支援学校であるため、聴覚特別支援教育の専門性が高い教職員が少ないのが現状。</p> <p>●校内体制、教職員数の問題：教育相談や通級巡回指導の希望者は多いが、外部支援のための教職員の配当が少ない。校内の教職員から捻出している状態で、校内も外部支援も苦しい状態である。/在籍する子どもも少ないため、教職員配置も年々減少→相談スタッフに教職員が割きにくい。/子ども数の減少により、教職員数も減り、担当できる教職員に限られる。/外部支援を行う教職員に限られており、人材を育てることが十分にできていない。/特別支援教育コーディネーター以外の教職員にも協力を要請しているが、業務が偏り人材確保が難しい。</p>

Table2-3 外部支援実施上の各課題の自由記述の傾向

		最頻出語を含む記述
課題7	研修 (18) 教職員 (7) 支援先 (7) 依頼/研修会/実施/ 難しい/必要 (4)	<p>●研修意義・必要性の理解の問題：校務との調整を図りながらの支援や研修であることを外部支援先で理解が十分になされていないと感じる時がある。/研修が必要であると思われるのに、支援先で設定がなかったり、講師としての派遣依頼がない。/きこえについての研修を依頼する学校が少ない。/研修後の反応で、「そうだったのか」と言われることはよくあるので、もっと積極的に研修を取り入れる支援先が増えると良い。/依頼を受けても困り感がなく、研修の必要性を感じていないよう、温度差を感じることがある。</p> <p>●計画的研修の観点：外部支援先の教職員が長期にわたって担当する教職員が少なく、毎年新任者研修からレベルアップしにくい。/1回だけの研修で理解を得てもらうことは難しい。/外部支援先の教職員に向けて、本校で聴覚障害教育についての研修会を定期的に開催している、研修に対するニーズは高い。/回数が十分でない。年々少なくとも1回研修の機会がもてるといいと思うが。/研修を受けた後、支援先の教職員がどのように取り組んでいるか状況を把握できていない。</p> <p>●研修時間の確保の問題：閉庁時間も早まっているため、研修の実施が時間的にも難しいのではないと思う。/多様になる支援ニーズについて研修するには、小学校・中学校が多忙過ぎる。/研修の時間が十分にはとれない。/コロナ禍において対面での研修ができず、オンラインによる研修を充実させるための工夫を検討している。</p> <p>●実施側の問題：研修内容や資料、教材については、ある程度蓄積があるため、大きな問題ではないが、それらを活用しながら、ニーズにあった内容を検討し、提供していける人材育成には課題があると感じる。</p>
課題8	研修 (15) 教職員 (12) 必要 (12) 外部支援 (10) 校内/行う (8)	<p>●外部支援の研修の必要性、時間確保の問題：複数障害対応校のため、研修機会の調整の難しさや教職員の認識の差。/外部支援として取り組んでいることについて、校内の理解を広げるための研修の機会は十分に作れていない。/個々の業務の負担が増加しているため、新任教職員の研修にかけられる時間がなかなかとづらい。/校内の業務に追われているので、外部支援のための研修は現実的ではないように思う。/校内で外部支援に関わる研修はされていない。/教育相談担当になっても、相談を行う上で必要な知識を持ちあわせていない場合もある。研修が必要。/異動により、聴覚障害教育に初めて携わる教職員が増えているので、定期的に研修を行う機会を探る必要がある。/経験と研修を計画的に配分した人材育成研修が必要である。/教科指導に関する研修も必要であり、時間が確保できない状況。</p> <p>●研修実施の工夫：データがあるので、それで研修ができています。/校内研修も必要だが、校外での研修、またケースに応じて自分で知識を深めていくことが必要だと感じている。</p> <p>●研修内容の不十分さ：校内で研修を行っているが、一定の教職員に負担がかかり、幅広い内容を扱えていない。/お互いに情報交換をし、研修等での情報を共有したりしているが十分とは言えない。</p>
課題9	専門性 (23) 知識 (16) 教職員 (13) 研修 (12) 必要 (11)	<p>●異動および育成・継承の問題：転勤もあり専門性を有する教職員が異動したり、知識等の継承に時間がかかったり、難しさを感じる。/小規模のため、担当者が少なく、専門性の継承が難しい。/聴覚障害教育の専門性を継承していくのが年々厳しくなっている。/担当者も知識や専門性を身につけようと努力しているが、本校の他の教職員への啓発や専門性の向上に向けて考えていく必要がある。/人事異動が多く、専門性が確保できない。/県内、校内の人事も関係しており、専門性の継承は困難である。/支援を中心に行っている教職員は、ある程度聴覚障害教育の経験や専門性があるが、今後知識や専門性を維持できるか難しい。/高度な専門性だけでなく、支援先の教職員が納得するような子どもの行動を下にした特性の解説（洞察力）、外部支援先の実態に応じた助言（生徒指導的な要素も必要）を丁寧に行うことで、支援先との信頼関係の構築を図れる人材でなくてはならないと感じる。その人材を育てるということは非常に大変な事である。/人事異動や校内人事等で、専門性を伝承していくことが難しい。/教職員個々の聴覚障害教育に関する専門性の維持や継承が課題である。</p> <p>●自己研鑽のための時間・機会：聴覚障害の専門性以外にも外部機関や公的支援などの情報等を常に必要としているため、そのための時間がほしい。/文科省や特総研をはじめ、研修の機会は増え、専門性の向上を図る体制はあると思われる。/担当する教職員の時間、人材に配慮が充分ではないため、知識・専門性を高める研究が困難。/外部支援を行う担当者が研修を行い専門性を高める場が少ない。/専門性の向上は個人の意欲に任されているので、研修参加等も個々での参加となり研修費用も自己負担となる。</p> <p>●専門性の必要性、不十分さ：少しでもニーズに応えられるようにするには知識を更新していくことや外部支援を担当する者としての教育相談の力などの専門性を高めることは必須であると考えから。/専門性の不十分さを感じている。年齢、きこえの状態、相談内容等多岐にわたる色々な知識とネットワークが必要。/専門性の領域の幅も広いので対応が難しい。/求められる専門性が多岐にわたり、複数の教職員でカバーしている現状。/センター的機能をうたう以上、専門性は不可欠。</p>

については回答の比率に有意な差は見られなかったが、全項目の中で「大きな問題であると思う」と回答された割合が最も大きかった。課題6の自由記述からは「教職員」「専門性」「必要」「外部支援」といった語が頻出され、記述内容より、専門性のある人材を確保したいが、人事異動や教職員数の減少によって専門性の育成・継承が難しいことが示された。聴覚特別支援学校の在籍者数は減少傾向にあり、それに伴い今後教職員の配置も減少し、専門性の継承は今後ますます難しくなることが予想される。喜屋武・渡部・高木（2022）では、多くの聴覚特別支援学校が外部支援を担当する教員に他業務との兼任教員を配置し、複数人で対応していることが示された。学校全体で外部支援を行う体制ができていない聴覚特別支援学校も見られたことから、他業務との兼任という形で多くの教員が外部支援に携わることが、専門性継承の一つの方法ではないかと考えられる。

一方で、大きな問題ではないと思われる課題も見られた。課題7「外部支援先の教職員への研修」は「大きな問題であると思う」の比率は、「問題であると思う」「大きな問題ではないと思う」と比べ有意に小さかった。喜屋武・渡部・高木（2022）による本研究の第1部・第2部の結果より、回答があった聴覚特別支援学校62校中、9割の学校が外部支援先に研修を実施していることが示され、研修実績があることから、問題の大きさとしては他と比べて小さくなったのではないかとと思われる。しかし、自由記述より、研修は行っているが、支援先の教職員の多忙さや支援先が研修の必要性を感じていないことから十分な研修ができていない状況も示された。喜屋武・飯塚・渡部・大鹿（2022）が九州・沖縄地方の難聴特別支援学級、難聴通級の担当教員に行った質問紙によれば、8割以上の教員が聴覚障害教育に関する研修を受けた経験があり、今後の研修に対する幅広いニーズも示されている。これは、課題3や課題4の記述と関連し、障害のある児童生徒を担当する教職員の意識は高くても、学校全体に聴覚障害教育の理解が広がっておらず、学校としては研修の必要性が感じられていないことが考えられる。業務の多さや時間の確保の問題も見られたため、今後は支援先が研修をきっかけに学校全体で支援を進めていけるよう、1回の研修時間を短くした

り、支援先で研修を担える教職員を育成したりするなど、持続できる研修の在り方を検討していくことが必要だと考えられる。

課題意識に寄与する要因を分析したところ、「支援先に対すること」と「校内（聴覚特別支援学校）の課題」の2つの因子が抽出された。「支援先に対すること」には課題2「特別支援教育に対する外部支援先の管理職の意識」が最も影響を与えている要因として示された。課題2の自由記述からは、管理職の意識が教職員への意識や学校全体の支援体制に影響を与えることが示された。武田ら（2013）による幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校への巡回相談を担当した経験のある特別支援学校教職員等に対して行った巡回相談の課題の調査についても、本研究と同様に、管理職の特別支援教育に対する意識によって学校全体の雰囲気が大きく左右されることが示唆されている。よって、外部支援先の管理職を巻き込んだ連携の在り方を検討する必要があると考える。

「校内の課題」については、課題6「外部支援を実施するための人材確保」が最も影響を与える要因として示された。課題6に対する考察は先に示した通りである。

2. 地域別の外部支援実施上の課題意識の傾向

Fig.2より、北海道地方においては「大きな問題であると思う」という回答がなく、四国地方においても1つの課題を除き「大きな問題であると思う」の回答がなかった。一方で、中国地方においては「大きな問題である」という回答が目立った。喜屋武・渡部・高木（2022）でも聴覚特別支援学校の外部支援における地域の実態の差を示唆している。特別支援学校側の外部支援体制および外部支援先の特別支援教育体制、自治体の方針や関係機関との連携の違いが考えられるが、外部支援の地域差について、体系的な研究はほとんど見られない。今後は各地域での外部支援の実態を集めて、分析することで、地域の差を生み出している原因を明らかにし、より良い外部支援の在り方を検討していくことが課題である。

V 結語

本研究では、全国の聴覚特別支援学校を対象に、地域の園・学校に対する外部支援の課題につ

いて調査を行った。多くの学校が課題意識を持っており、その背景には外部支援先の教職員や管理職の違いから、学校組織にアプローチすることの難しさがあることが示唆された。また、聴覚特別支援学校の外部支援を実施するための人材確保や専門性の維持・継承の問題も示され、その背景には教職員の減少や人事異動による教員配置の変化、聴覚障害教育ゆえの専門性育成の難しさがあることが示唆された。このことから、聴覚特別支援学校の外部支援においては、学校組織にアプローチすることで切れ目のない支援を目指すことが求められるだろう。また、聴覚特別支援学校内においても専門性を途切れさせない教員配置の工夫が必要になる。

付記

本研究は福岡教育大学教育総合研究所研究プロジェクト特別支援教育研究部門の助成を受けて実施しました（令和2年度～令和3年度）。調査にご協力いただきました聴覚特別支援学校及び聴覚障害部門を設置する特別支援学校の先生方に心より感謝申し上げます。

本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はありません。

文献

- 1) 林田真志・河野そらみ・河原麻子（2018）小学校の難聴特別支援学級における自立活動に関する実態調査. 広島大学大学院教育研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, 16, 1-8.
- 2) 廣田栄子・齋藤佐和・大沼直紀（2019）聴覚障害児の早期介入に関する検討：全国聴覚特別支援学校乳幼児教育相談調査. *Audiology Japan*, 62 (3), 224-234.
- 3) 井戸伸之・左藤敦子（2018）通級指導教室（難聴・言語障害）と特別支援学校（聴覚障害）における連携および協力の現状と課題. 筑波大学特別支援教育研究, 12, 73-81.
- 4) 井坂行男・仲野明紗子（2009）全国の特殊教育諸学校におけるセンター的機能の現状と課題. *特殊教育学研究*, 7 (1), 13-21.
- 5) 井坂行男・佐々木千春・池谷航介（2012）特別支援学校におけるセンター的機能の発展性に関する検討. 大阪教育大学紀要 第IV部門教育科学, 61 (1), 1-18.
- 6) 喜屋武睦, 渡部杏菜, 高木しおん（2022）聴覚特別支援学校における外部支援に関する一検討－現状に焦点を当てて－. *聴覚言語障害*, 51(2), 65-78.
- 7) 喜屋武睦・飯塚わかな・渡部杏菜・大鹿綾（2022）聴覚障害児を対象とした特別支援学級及び通級指導教室の現状と課題－担当教員のニーズに着目して－. 福岡教育大学紀要, 71 (4), 227-237.
- 8) 松田真一・芝野稔（2011）特別支援教育における学校コンサルテーションの在り方に関する研究～これから望まれる学校支援～. 平成22年度高知県教育センター研究報告書, 1-14.
- 9) 松村勘由・大内進・笹本健・西牧謙吾・小田侯朗・當島茂登・藤井茂樹・笹森洋樹・牧野泰美・徳永亜希雄・滝川国芳・太田容次・横尾俊・渡邊正裕・伊藤由美・植木田潤・亀野節子（2009）小・中学校における特別支援教育への理解と対応の充実に向けた特別支援学校のセンター的機能の取組. 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 36, 17-28.
- 10) 三科潤（2007）新生児聴覚スクリーニングの現状と今後の課題. *小児保健研究*, 66 (1), 3-9.
- 11) 文部科学省（2005）特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）.
- 12) 文部科学省（2008）特別支援教育資料, 文部科学省, 2008年4月, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/020.htm（2022年7月17日閲覧）
- 13) 文部科学省（2017）平成27年度特別支援学校のセンター的機能の取り組みに関する状況調査について, 文部科学省, 2017年3月, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1383107.htm（2022年7月17日閲覧）
- 14) 文部科学省（2022）特別支援教育資料（令和3年度）, 文部科学省, 2022年11月, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456_00010.htm（2023年10月30日閲覧）
- 15) 斎藤佐和・四日市章・鷺尾純一・田中耕司（2004）聾学校におけるセンター的機能の現

状と展望. 心身障害学研究, 28, 133-147.

- 16) 武田篤・斎藤孝・新井敏彦・佐藤圭吾・藤井慶博・神常雅 (2013) 特別支援教育における学校コンサルテーションの充実に向けて～コンサルタントが抱く困難生徒求められる専門性～. 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 35, 79-85.
- 17) 矢野朱美・齋藤佐和・鷺尾純一・四日市章 (2004) 難聴学級・通級指導教室の教育環境と聾学校との連携の在り方. 心身障害学研究, 28, 111-121.

付録 調査用紙

外部支援に関する調査	Ⅱ 外部支援の取り組みについて																																																																																
<p>本調査における「外部支援」は聴覚特別支援学校以外の園・学校への相談・支援を指します。 外部支援に関する実施についてお聞きします。回答については、選択肢の場合は□にチェックし、選択肢以外の場合はご記述下さい。</p> <p>Ⅰ 基本情報</p> <p>1) ご記入いただいている先生の役職について教えてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 校長 <input type="checkbox"/> 副校長 <input type="checkbox"/> 教頭 <input type="checkbox"/> 学年主任 <input type="checkbox"/> 学級担任 <input type="checkbox"/> 教科担任 <input type="checkbox"/> 教務主任 <input type="checkbox"/> 生活指導主任 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> その他() </div> <p>2) 学校の所在地について教えてください。可能であれば都道府県もご記入下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北地方 <input type="checkbox"/> 関東地方 <input type="checkbox"/> 中部地方 <input type="checkbox"/> 近畿地方 <input type="checkbox"/> 中国地方 <input type="checkbox"/> 四国地方 <input type="checkbox"/> 九州地方 (都・道・府・県) </div> <p>3) 学校の学部構成について教えてください。該当する事項の全てにチェックして下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部 <input type="checkbox"/> 専攻科 </div> <p>4) 学校の本務教員数(非常勤講師含む)について教えてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 0~20人 <input type="checkbox"/> 21~40人 <input type="checkbox"/> 41~60人 <input type="checkbox"/> 61~80人 <input type="checkbox"/> 81~100人 <input type="checkbox"/> 101人~ </div> <p>5) 外部支援に携わっている教員数について教えてください。 *外部支援専任として任命されている場合は「専任」、担当者が外部支援以外の業務も担っている場合は「兼任」としてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-between;"> 専任: 人 ; 兼任: 人 </div>	<p>過去2年間(令和元年度から令和2年度)に実施した外部支援についてお聞きします。</p> <p>1) 対象となった学校種における相談・支援の延べ件数(概数)について教えてください。 *ここでの「相談・支援」は相談形態に限らず(巡回、来校、研修、電話・メール等含む)、外部の園・学校に対し行った外部支援全般を指します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>保育園</th> <th>件</th> <th>幼稚園</th> <th>件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>件</td> <td>中学校</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>件</td> <td>特別支援学校(聴覚以外)</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>その他()</td> <td>件</td> <td>過去2年間は支援は行っていない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 相談・支援の対象となった教員について教えてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 通常の学級担任 <input type="checkbox"/> 特別支援学級担任 <input type="checkbox"/> 通級指導教室担当教員 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> 教育相談担当教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> その他() </div> <p>3) 実施した相談・支援の内容について、以下のうちからすべて選んでください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <input type="checkbox"/> 障害者の状況等にかかる実態把握 <input type="checkbox"/> 就学や進学に係る相談・助言 <input type="checkbox"/> 進路や就労等に係る相談・助言 <input type="checkbox"/> 校内体制の構築に係る相談・助言 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒への直接的指導 <input type="checkbox"/> 保護者からの相談 </div> <div style="width: 48%;"> <input type="checkbox"/> 指導・支援に係る相談・助言 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画の作成に係る相談・助言 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画の作成に係る相談・助言 <input type="checkbox"/> 他機関への連携に係る依頼 <input type="checkbox"/> 相談を受けた幼児児童生徒への視力検査の実施 <input type="checkbox"/> その他() </div> </div> </div> <p>4) 過去2年間に実施した、外部の園・学校の教員を対象とした研修内容について教えてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>過去2年間は外部として研修は行っていない → 次ページにお読みください</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <input type="checkbox"/> 聴覚障害者の知識に関すること <input type="checkbox"/> 教材開発に関すること <input type="checkbox"/> 聴覚活用に関すること <input type="checkbox"/> 補聴器に関すること <input type="checkbox"/> 本人の障害認識に関すること <input type="checkbox"/> 手話に関すること <input type="checkbox"/> 進路指導に関すること <input type="checkbox"/> 文法・在籍学級との連携に関すること <input type="checkbox"/> 視力検査に関すること <input type="checkbox"/> 言語障害児教育に関すること <input type="checkbox"/> その他() </div> <div style="width: 48%;"> <input type="checkbox"/> 教科指導に関すること <input type="checkbox"/> 発音・発語指導に関すること <input type="checkbox"/> 聴覚に配慮した環境づくりに関すること <input type="checkbox"/> 人工耳に関すること <input type="checkbox"/> 周囲の障害理解に関すること <input type="checkbox"/> ろう文化の知識に関すること <input type="checkbox"/> 保護者支援に関すること <input type="checkbox"/> 発達検査・知能検査等に関すること <input type="checkbox"/> 個別の指導計画の作成に関すること </div> </div> </div>	保育園	件	幼稚園	件	小学校	件	中学校	件	高等学校	件	特別支援学校(聴覚以外)	件	その他()	件	過去2年間は支援は行っていない																																																																	
保育園	件	幼稚園	件																																																																														
小学校	件	中学校	件																																																																														
高等学校	件	特別支援学校(聴覚以外)	件																																																																														
その他()	件	過去2年間は支援は行っていない																																																																															
1	2																																																																																
<p>Ⅲ 外部支援実施上の課題</p> <p>ここでは、外部支援を行う上での課題についてお聞きします。各質問に対し、その課題が「1. 大きな問題ではないと思う、2. 問題であると思う、3. 大きな問題であると思う」の3段階でご回答ください。判断に関しては、あくまでもご回答いただく先生の主観的判断をお願いいたします。また、具体的な問題の内容やその理由があればお答え下さい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1. 大きな問題ではないと思う</th> <th>2. 問題であると思う</th> <th>3. 大きな問題であると思う</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 外部支援先の教職員の特別支援教育システムに対する意識について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>2. 特別支援教育に対する外部支援先の管理職の意識について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>3. 教育的ニーズのある子どもへの支援に対する外部支援先の教職員の意識について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>4. 外部支援先の校内支援体制構築について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>5. 外部支援を実施するための時間の確保について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>		1. 大きな問題ではないと思う	2. 問題であると思う	3. 大きな問題であると思う	1. 外部支援先の教職員の特別支援教育システムに対する意識について	□	□	□	具体的内容または理由:				2. 特別支援教育に対する外部支援先の管理職の意識について	□	□	□	具体的内容または理由:				3. 教育的ニーズのある子どもへの支援に対する外部支援先の教職員の意識について	□	□	□	具体的内容または理由:				4. 外部支援先の校内支援体制構築について	□	□	□	具体的内容または理由:				5. 外部支援を実施するための時間の確保について	□	□	□	具体的内容または理由:				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1. 大きな問題ではないと思う</th> <th>2. 問題であると思う</th> <th>3. 大きな問題であると思う</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6. 外部支援を実施するための人材確保について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>7. 外部支援先の教職員への研修について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>8. 外部支援を充実させるための校内研修(聴覚支援学校内)について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>9. 外部支援を行う担当者の知識・専門性について</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>具体的内容または理由:</td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の項目以外で外部支援を行う上で感じる課題や困っていることがあれば教えてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin-top: 10px;"></div> <p style="text-align: center; font-size: small;">アンケートは以上になります 上記アンケートを終え、私どもの研究にご協力いただける際には下記のことにお願ひ致します （本研究への協力を要する。□） ご協力いただき誠にありがとうございました</p>		1. 大きな問題ではないと思う	2. 問題であると思う	3. 大きな問題であると思う	6. 外部支援を実施するための人材確保について	□	□	□	具体的内容または理由:				7. 外部支援先の教職員への研修について	□	□	□	具体的内容または理由:				8. 外部支援を充実させるための校内研修(聴覚支援学校内)について	□	□	□	具体的内容または理由:				9. 外部支援を行う担当者の知識・専門性について	□	□	□	具体的内容または理由:			
	1. 大きな問題ではないと思う	2. 問題であると思う	3. 大きな問題であると思う																																																																														
1. 外部支援先の教職員の特別支援教育システムに対する意識について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
2. 特別支援教育に対する外部支援先の管理職の意識について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
3. 教育的ニーズのある子どもへの支援に対する外部支援先の教職員の意識について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
4. 外部支援先の校内支援体制構築について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
5. 外部支援を実施するための時間の確保について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
	1. 大きな問題ではないと思う	2. 問題であると思う	3. 大きな問題であると思う																																																																														
6. 外部支援を実施するための人材確保について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
7. 外部支援先の教職員への研修について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
8. 外部支援を充実させるための校内研修(聴覚支援学校内)について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
9. 外部支援を行う担当者の知識・専門性について	□	□	□																																																																														
具体的内容または理由:																																																																																	
3	4																																																																																

